

上峰町文化財調査報告書第43集

上峰町内遺跡確認調査Ⅷ

上峰町内における開発行為に伴う
埋蔵文化財確認調査報告書
—平成27年度—

2017年3月

上峰町教育委員会

上峰町内遺跡確認調査Ⅷ

上峰町内における開発行為に伴う
埋蔵文化財確認調査報告書
—平成27年度—



2017年3月

上峰町教育委員会

序

従来、上峰町は「遺跡の宝庫」と言われてきました。北部の脊振山系、その南麓から派生し南北に延びる洪積世丘陵と谷、さらに有明海へと続く沖積平野と変化に富んだ地形を含む町域には、いたるところに先人たちの暮らしの足跡が刻み込まれています。教育委員会では、こうした人々の暮らしの足跡、歴史的資産を保存活用し、将来へ継承していくために、開発と文化財の保護との調整に努めてまいりました。

近世以来の純農村集落の面影を色濃く残してきた上峰町は、昭和40年代後半から「農工併進のまちづくり」を理念に掲げ、工業団地の整備による大規模工場の誘致、農業基盤整備事業の実施とまちづくりを進めてまいりました。町の中央を国道34号線が東西に横断し、ここから、福岡県久留米市へは県道が通るという恵まれた交通環境に位置しており、佐賀市や鳥栖市、久留米市へも最適な通勤圏にあるところから、近年人口も着実に伸び、ベッドタウンとして発展してまいりました。これに伴い、各種商業施設、事業所等の町内進出も相次ぎ、上峰町は平成元年の町制施行以来、この20余年間で近代的な田園都市へと大きく変貌を遂げました。

本書は、上峰町内の埋蔵文化財の保護と開発との調整を図るために上峰町が平成元年度より国庫補助事業の適用を受け実施してまいりました町内遺跡確認調査の報告書であります。この開発に伴う町内遺跡確認調査の実施によって多くの遺跡が破壊、消滅をまぬかれ保護されました。この報告書を学術的な資料として、また今後の埋蔵文化財保護と開発との調整を図るために資料として役立てていただければ幸いです。

なお、この町内遺跡確認調査にあたって、ご指導、ご協力をいただきました佐賀県教育委員会、開発事業主体者をはじめ、関係各位に対し深く感謝申し上げます。

平成29年3月

上峰町教育委員会

教育長 矢動丸壽之

例　　言

1. 本書は、平成元年度から国庫補助事業として、上峰町内で実施してきた町内遺跡確認調査のうち平成27年度に実施した町内遺跡確認調査の報告書である。
2. 本書は、平成28年度の国庫補助事業により、上峰町教育委員会が作成、刊行したものである。
3. 町内遺跡確認調査は、上峰町教育委員会が実施した。
4. 現場での発掘作業は、重機により表土剥ぎを行い、調査員の指示により発掘作業員が精査し、遺構・遺物の有無を確認した。
5. 現場での図面、写真による記録作業は、調査員が行った。
6. 遺構などの現場における写真撮影及び出土遺物の写真撮影は、調査員が行った。
7. 調査後の出土遺物、記録類の簡単な整理作業は、当該年度にそれぞれ実施した。
8. 本書中の挿図・写真図版などの作成作業は、調査員の指示により、整理作業員が行った。
9. 本書の執筆・編集は、伊達有彩が行った。
10. 本報告書に係る町内遺跡確認調査で出土した全ての遺物及び現場で作成した図面・写真・その他の記録類は、上峰町教育委員会で保管している。

凡　　例

1. 「確認調査」・「試掘調査」の用語については、広くは遺跡の範囲内外を基準に「確認調査」・「試掘調査」と区別して取り扱われているが、本書では「確認調査」と統一し表記している。
2. 確認調査番号については、年度ごとに平成をあらわす「H」、年度を表す「数字」、ハイフンの後に一連の番号を付して、調査番号としている。本書中、各年度調査位置図・各年度実施確認調査一覧表・各年度の報文中の調査番号は一致する。
例) 平成27年度に3番目に実施した○○遺跡確認調査　　H27-3　○○遺跡
3. 「調査後の措置」については、本文中の標記は最終結果を記載したが、各年度の一覧表中の標記は当該年度末時点での状況を記載している。
4. 確認調査等の結果を受けて実施した本調査については、確認調査報告の節の後に、遺跡名と調査区番号を付して報告する。
例) ○○遺跡本調査　　○○遺跡○区発掘調査
5. 本文・挿図中の方位については、全て座標北を基準としている。
6. 表中の数値に付した記号で、() は推定値を、※は部分値を表す。
7. 先の市町村合併により、上峰町周辺の町村も合併が進み町村名が変更になっている。本書では現在の市町名のあとに() で旧市町村名を記している。

調査組織

平成 27 年度

調査主体 上峰町教育委員会

調査事務局 総括 矢勤丸 壽之 上峰町教育委員会 教育長

事務主任 原田 大介 // 文化課長

経費執行 伊達 有彩 // 文化課文化係

調査組織 調査員 原田 大介 // 文化課長

伊達 有彩 // 文化課文化係

調査指導 佐賀県教育委員会

発掘作業参加者

平成 27 年度

福員 千鶴子・江崎 愛子・大庭 始・岡村 秀俊・鳴山 美千代・杉谷 勇・杉谷 嘉泰・田中 一馬・堤 脩次郎・鶴田 克己・演 富助・宮崎 正秋・牟田 康孝・森田 安治・矢勤丸 松美・山田 富士夫

整理作業参加者

江崎 愛子・島 美保子（平成 28 年度 整理作業員）

目 次

序	
例言・凡例	
調査組織・発掘作業参加者・整理作業参加者	
I. 上峰町の位置と環境	1
1. 上峰町の位置	1
2. 歴史的環境	1
II. 調査の概要	6
1. 調査に至る経緯	6
2. 調査の方法	6
III. 平成27年度の調査	9
H27-1 西峰遺跡	13
H27-2 周知外下津毛地区	14
H27-3 坊所五本谷遺跡(1)	15
H27-4 周知外下坊所地区(1)	16
H27-5 周知外下坊所地区(2)	17
H27-6 米多城跡	18
H27-7 三上遺跡(1)	19
H27-8 坊所五本谷遺跡(2)	20
H27-9 坊所五本谷遺跡(3)	21
H27-10 五本谷遺跡	22
H27-11 周知外下坊所地区(3)	23
H27-12 周知外江迎地区	24
H27-13 一本谷遺跡(1)	25
H27-14 一本谷遺跡(2)	26
H27-15 船石工業団地遺跡	27
H27-16 一本谷遺跡(3)	28
H27-17 三上遺跡(2)	29
H27-18 外記遺跡	30
H27-19 谷波古墳群	31
H27-20 三上遺跡(3)	32
H27-21 坊所城跡	33
H27-22 切通遺跡	34
H27-23 周知外下米多地区	35
H27-24 周知外東前牟田地区	36

挿図目次

Fig. 1 上峰町内主要遺跡及び周辺遺跡 (1/50,000)	2
2 上峰町遺跡地図 (1/50,000)	7
3 平成 27 年度 確認調査地位置図 (1/50,000)	12
4 H27-1 西峰遺跡 (1/5,000)	13
5 H27-2 周知外下津毛地区 (1/5,000)	14
6 H27-3 坊所五本谷遺跡(1) (1/5,000)	15
7 H27-4 周知外下坊所地区(1) (1/5,000)	16
8 H27-5 周知外下坊所地区(2) (1/5,000)	17
9 H27-6 米多城跡 (1/5,000)	18
10 H27-7 三上遺跡(1) (1/5,000)	19
11 H27-8 坊所五本谷遺跡(2) (1/5,000)	20
12 H27-9 坊所五本谷遺跡(3) (1/5,000)	21
13 H27-10 玉本谷遺跡 (1/5,000)	22
14 H27-11 周知外下坊所地区(3) (1/5,000)	23
15 H27-12 周知外江迎地区 (1/5,000)	24
16 H27-13 一本谷遺跡(1) (1/5,000)	25
17 H27-14 一本谷遺跡(2) (1/5,000)	26
18 H27-15 船石工業団地遺跡 (1/5,000)	27
19 H27-16 一本谷遺跡(3) (1/5,000)	28
20 H27-17 三上遺跡(2) (1/5,000)	29
21 H27-18 外記遺跡 (1/5,000)	30
22 H27-19 谷渡古墳群 (1/5,000)	31
23 H27-20 三上遺跡(3) (1/5,000)	32
24 H27-21 坊所城跡 (1/5,000)	33
25 H27-22 切通遺跡 (1/5,000)	34
26 H27-23 周知外下米多地区 (1/5,000)	35
27 H27-24 周知外東前半田地区 (1/5,000)	36

表 目 次

Tab. 1 平成 27 年度 町内遺跡確認調査一覧表	10
報告書抄録	

図版目次

PL. 1	H27-1	西峰遺跡	13
2	H27-2	周知外下津毛地区	14
3	H27-3	坊所五本谷遺跡(1)	15
4	H27-4	周知外下坊所地区(1)	16
5	H27-5	周知外下坊所地区(2)	17
6	H27-6	米多城跡	18
7	H27-7	三上遺跡(1)	19
8	H27-8	坊所五本谷遺跡(2)	20
9	H27-9	坊所五本谷遺跡(3)	21
10	H27-10	五本谷遺跡	22
11	H27-11	周知外下坊所地区(3)	23
12	H27-12	周知外江迎地区	24
13	H27-13	一本谷遺跡(1)	25
14	H27-14	一本谷遺跡(2)	26
15	H27-15	船石工業団地遺跡	27
16	H27-16	一本谷遺跡(3)	28
17	H27-17	三上遺跡(2)	29
18	H27-18	外記遺跡	30
19	H27-19	谷波古墳群	31
20	H27-20	三上遺跡(3)	32
21	H27-21	坊所城跡	33
22	H27-22	切通遺跡	34
23	H27-23	周知外下米多地区	35
24	H27-24	周知外東前牟田地区	36

I. 上峰町の位置と環境

1. 上峰町の位置 (Fig. 1)

佐賀県三養基郡上峰町は、佐賀県東部の穀倉地帯である佐賀平野のほぼ中央、三養基郡の西端に位置しており、東部は同郡みやき町（旧中原町・旧北茂安町）と、南部は同郡みやき町（旧三根町）と、西部は神埼郡吉野ヶ里町（旧東脊振村・旧三田川町）と境を接している。また、この神埼郡との境界は、古代以来の三根郡との郡界を踏襲しており、現在も町のほぼ中央を東西に横断する国道34号線付近の旧三田川町と境を接する地域は郡境地区と呼称されている。

鳥栖市から佐賀市大和町（旧佐賀郡大和町）に至る佐賀県東部には、北部に背振山地、その南麓に発達する更新世丘陵、さらに南部には有明海へと続く沖積平野が展開するという、変化に富んだ地形が発達している。なかでも、山麓部から沖積平野部へ移行する部分に発達する更新世丘陵は、山麓部に源を発し有明海へと南流する大小の河川によって浸食され北から南へ延びる舌状を呈した段丘を数多く形成している。そして、これらの段丘は古くから人々の生活の場として利用され、段丘上には数多くの遺跡が分布し、遺跡数、内容ともに県内でも有数の地域となっている。

そのようななか、南北に細長い町域をもつ上峰町においても、北部に山麓部、中央部に更新世丘陵部、南部に沖積平野部と、この佐賀県東部の特徴的な地形が展開しており、とくに中央部に発達する更新世丘陵地域を中心に遺跡の分布が知られ、古くから「遺跡の宝庫」と呼ばれてきた。

2. 歴史的環境 (Fig. 1)

上峰町を中心に佐賀県東部の遺跡を概観すると、前述のとおり、山麓部から更新世丘陵部におよぶ一帯が古くから人々の生活の舞台となっており、山麓部及び各段丘上には、現在、遺跡の存在が知られ、県内においてもとくに弥生時代遺跡を中心に遺跡の分布密度が高い地域となっている。沖積地を望む丘陵部のほとんどが、各時代の集落あるいは墓域として占有され、とりわけ、弥生時代以降の遺跡を縄文時代以前の遺跡と比較すると、量的にも、質的にも爆発的に増加、充実する。銅鐸の鋳型を出土した鳥栖市安永田遺跡¹、約400基の甕棺墓が検出されたみやき町（旧中原町）姫方遺跡²、埋納された12本の銅矛を出土したみやき町（旧北茂安町）検見谷遺跡³、甕棺墓から船艤鏡を出土した吉野ヶ里町（旧東脊振村）三津永田遺跡⁴、近年の工業団地建設に先立つ調査で貴重な遺構、遺物が検出された神埼市（旧神埼町）吉野ヶ里町（旧三田川町・旧東脊振村）に跨る吉野ヶ里遺跡⁵など多くの著名な集落遺跡、墳墓群が知られ弥生時代の「クニ」あるいは「ムラ」単位の集団の存在が想定されるに至っている。このようななか、南北約12km、東西約3kmと南北に細長い町域を持つ本町においても同様に、町の北部から中央部を占める更新世段丘上に弥生時代を中心とする各時代の遺跡が分布している。

先土器時代の遺跡についてみると、各段丘で層序が異なる本地域においては本格的な調査がなされていないのが現状で、断片的な遺物の出土、採取にとどまっている。町内では、平成4年度の県営農業基盤整備事業に伴う八幡遺跡の調査において細石刃1点とこの時期のものと考えられる石器類が少量出土しているが、これが発掘調査における主な出土例である⁶。周辺地域では、吉野ヶ里町（旧三田川町）との境界に位置する二塚山丘陵の吉野ヶ里町（旧三田川町）側からナイフ形石器の採取例が報告されている⁷。また、平成5年度の県営農業基盤整備事業に伴う八幡遺跡下層における阿蘇4火碎跡と埋没林に係る調査において、先土器時代の年代示標となっている始良-Tn火山灰（AT）の含有ピークが、通常の丘陵上の埋蔵文化財調査において遺構検出面としている「地山」



上峰町		12	塙六本谷遺跡	24	坊所遺跡	自中町	47	西平水道跡	日神跡
1	寒の院古墳群	13	瑞士墨跡	25	柳寺遺跡	36	山田森古墳出土地	50	志波星六本松遺跡
2	鏡西山城	14	八藤遺跡	26	杉寺遺跡	37	山田古墳群	51	伊勢原前方後円墳
3	二本松古墳群	15	二桜山遺跡	27	坊寺二本松遺跡	38	大冢古墳	52	馬頭遺跡
4	源西山南董古墳群	16	五木谷遺跡	28	坊寺三本松遺跡	39	八幡社遺跡	53	大東古墳
5	塙三木松遺跡	17	船石遺跡	29	塔の原摩寺跡	40	猪原遺跡	54	辰巳石野村
6	尾原野古墳群	18	船石周邊跡	30	西平半田遺跡	41	猪方遺跡	55	高尾朝利出土跡群
7	谷波古墳群	19	昭通遺跡	31	半田站跡	42	龍方扇谷新田境	56	都石代古墳群
8	塙二木櫛遺跡	20	一本谷遺跡	32	前寺御城跡	43	龍方扇谷死	60	牧場一谷遺跡
9	青柳古墳群	21	坊所一木谷遺跡	33	加茂瀬若集落跡	44	ドンドン墓遺跡群	61	三井木ノ原遺跡
10	新立木墳群	22	上のびらう岩古墳	34	江口遺跡	45	町南遺跡	62	西石動遺跡
11	塙形原遺跡	23	日連原古墳群	35	一ノ瀬南瀬若落跡	46	天神遺跡	63	松原遺跡

Fig. 1 上峰町内主要遺跡及び周辺道路 (1/50,000)

の表層を構成する黄褐色風積土層の最上部付近、アカホヤ含有層のやや下部にて検出されている⁸⁾。

縄文時代になると、みやき町（旧中原町）番田遺跡⁹⁾や吉野ヶ里町（旧東脊振村）戦場ヶ谷遺跡¹⁰⁾などが出現する。町内においても、これまでも町北部の丘陵部から土器や石器が、耕作や先覚者の遺跡の表面観察などによって断片的に出土、採取されていたが、近年の上峰北部農業基盤整備事業に伴う発掘調査の結果、平成元年度の船石遺跡11区¹¹⁾、平成2年度から5年度にわたり実施した八藤丘陵の調査¹²⁾において、遺構や遺物がまとまって検出されており、今後の調査例の増加が期待されている。

弥生時代になると、遺跡の数や規模、その内容が飛躍的に増加、充実することは先に触れたが、早くから『魏志後人伝』の「弥奴國」の所在地を佐賀平野東部、なかでも三義基郡西部の旧三根郡にあてる論考が行われてきたことは周知のことである。旧三根郡に所属する上峰町においても、丘陵部のほとんどにこの時期の遺跡が展開している。しかし、町の南部や中央部の米多地区、坊所地区の丘陵部は、中世以降集落として発達し、早くから宅地化が進み、本格的な発掘調査の例に乏しく、わずかに再開発に伴い部分的に小規模の発掘調査が行われているに過ぎず、遺跡の詳細について把握できていないのが現状である。これに対して、町北部の大字堤地区では、近年の工業団地建設や農業基盤整備事業など大型開発に伴い広範囲かつ大規模な発掘調査が実施され、各遺跡から当時の社会の様子を知るうえで貴重な資料が得られている。町内の代表的な遺跡としては、甕棺墓から細形銅劍や貝類を出土した切通遺跡¹³⁾、吉野ヶ里町（旧東脊振村・旧三田川町）に跨る、佐賀県東部中核工業団地の建設に伴い甕棺墓、土壙墓など約300基が調査され、船載鏡、小型帆製鏡をはじめとする貴重な副葬品を出土した二堅山遺跡¹⁴⁾、佐賀県住宅供給公社の宅地造成に伴う調査で一集団の集落部分の全容が明らかになった一本谷遺跡¹⁵⁾、地区運動公園整備に伴う調査で5世紀代の古墳とともに支石墓はじめ多数の甕棺墓が検出された船石遺跡¹⁶⁾などが知られている。また、近年の上峰北部県営農業基盤整備事業に伴う調査においても、船石遺跡¹⁷⁾、船石南遺跡¹⁸⁾、八藤遺跡¹⁹⁾から住居址や甕棺墓などが多数検出されている。

古墳時代になると、この地域にも首長墓が出現する。初頭の時期にはみやき町（旧中原町）姫方原遺跡²⁰⁾、上峰町五本谷遺跡²¹⁾などにおいて方形周溝墓が営まれ、やがて中期にかけて鳥栖市から佐賀市大和町に至る山麓や丘陵部に大型の前方後円墳が出現する。鳥栖市劍塚古墳²²⁾、みやき町（旧中原町）姫方古墳²³⁾、上峰町西南部から吉野ヶ里町（旧三田川町）に跨る目達原古墳群²⁴⁾、神埼市（旧神崎町）伊勢塚古墳²⁵⁾、佐賀市大和町船塚古墳²⁶⁾など佐賀県東部の代表的な古墳が築かれるようになる。さらに後期になると、現在長崎自動車道や県道佐賀川久保・鳥栖線が通る山麓部から丘陵部に跨る一帯に小円墳を中心とした古墳が多数築かれて、それぞれが山麓部の尾根や谷あるいは丘陵を単位として後期古墳群を形成している。

後の『肥前風土記』にみえる三根郡米多郷に属する当時の上峰町一帯は、『古事記』、『国造本紀』などの記事によれば応神天皇の骨倉にあたる「都紀女加」なる人物が初代の米多国造として中央より下向した地域に比定され、その中心は、町南西部の米多地区から吉野ヶ里町（旧三田川町）東部の目達原一帯にあったと推定されている。町内の主要な古墳としては、都紀女加を始祖とする米多国造一族の墳墓として、5世紀代後半に形成されたと考えられる上のびゅう塚（現在、陵墓「都紀女加王墓」宮内庁管轄）はじめ無名塚、大塚、古船荷塚、稻荷塚などの前方後円墳ほかからなる目達原古墳群²⁸⁾が知られていたが、戦前の陸軍飛行場建設の際に、唯一上のびゅう塚を残し他の古墳は簡単な発掘調査の後破壊されている。また町の北部の古墳としては、同じく5世紀代の古墳で、蛇行状鉄劍、蛇行状鉄矛を出土した船石天神宮境内の船石古墳1～3号墳²⁹⁾が知られている。古墳時代後期の古墳としては、町北部の鎮西山の周辺山麓部から高位段丘上にかけて、小円墳を主体とする谷渡、青柳、新立、奥の院、鎮西山南麓、屋形原などの古墳群が点在している。

一方、この時期の集落は、吉野ヶ里町（旧三田川町）下中村遺跡³⁰⁾、吉野ヶ里町（旧東脊振村）下石動遺跡³¹⁾などが知られているが、弥生時代集落に比べ、遺跡そのものの数も少なく、調査例も少なくいまだに実態が明らかになっていないのが現状である。町内の遺跡をみても、当時の政治的中心であったと考えられる町南部の米多地区周辺における本格的な発掘調査の例がなく、今後の大きな課題といえる。

奈良・平安時代遺跡としては、吉野ヶ里町（旧三田川町）下中村遺跡、吉野ヶ里町（旧東脊振村）辛上廢寺跡³²⁾、靈仙寺跡³³⁾などが著名であるが、この時期の遺跡についてもまとまった調査例が少なく、実態はあまり解明されていない。当時の遺構として大規模なものは、佐賀平野に敷かれた条里制の遺構が上げられ、早くから地名などから条里の復元が試みられ、現在ではほとんどの条里が復元されている。また、大宰府から肥前国府へ通じる官道の調査も進み、近年部分的な発掘調査が行われている。

町内では堤土塁跡³⁴⁾や塔の廬庵寺跡³⁵⁾などが奈良時代の遺跡として戦前から注目されている。町北部の堤地区の八藤丘陵と二塚山丘陵の間の谷底平野を遮断する形で築かれた堤土塁跡は、版築工法により築かれた福岡県の水城に似た施設＝「小水城」で、その築造目的が、大宰府の防衛施設であるとする説、灌漑用水確保のための溜池の堤防であるとする説など議論がなされたが、平成2年度からの土塁の東方に接する八藤丘陵の調査において、土塁東端から一直線に八藤丘陵を東方へ横断する道路側溝状の遺構が検出され³⁶⁾、その性格付けにあらたに古代道の存在が想定されることとなった。また町南西部を占める目達原丘陵の南端部に位置する塔の廬庵寺跡は、百济系車軸丸瓦が発見され、戦前までは基壇、礎石の存在が知られていた奈良時代中期の寺院址で、目達原古墳群を営んだ米多国造一族の流れをくむ三根郡の郡司層が建立したものと推定されている。また、町内における奈良・平安時代の集落は、農業基盤整備事業に伴う調査や近年の大規模小売店舗建設に先立つ坊所一本谷遺跡³⁷⁾の調査などまとまった調査がなされたのみで、今後の調査例の増加が期待される。

中世になると、北部の山麓部の小峰に山城が築かれ、沖積平野部には藻縄を伴う平城や集落が出現する。町内の中世城館址としては、北部の鎮西山山城、上峰町中央部の平野を臨む丘陵部に坊所城跡、町南部の平野部には米多城跡、前牟田城跡、江迎城跡、一の橋環濠集落、加茂環濠集落などが知られていた³⁸⁾。しかし、昭和40年代後半からの國場整備事業によって、これら平野部の遺構は、原状がほとんど失われてしまった。そのようななかで、町の親水公園として整備された江迎城跡では13世紀後半代の龍泉窯系の青磁碗が建物跡とともに出土し、また、坊所城跡では16世紀後半代の青花がそれぞれ出土している³⁹⁾。

以上、上峰町を中心に佐賀県東部の遺跡を概観したが、まさにこの地域は遺跡の密度、その内容ともに高く、遺跡の宝庫と呼ぶにふさわしい地域といえる。

註

- 1) 藤瀬清博・石橋新次『塙比遺跡郡範囲調査第3年次概要報告書』島崎市文化財調査報告書第30集 島崎市教育委員会 1980
- 2) 木下巧・天本洋一『姫方遺跡』佐賀県文化財調査報告書第30集 佐賀県教育委員会 1974
- 3) 七田忠昭『徐見谷遺跡』北茂安町文化財調査報告書第2集 北茂安町教育委員会 1986
- 4) 金闇丈夫・坪井清足・金闇惣一『佐賀県三津永田遺跡』『日本農耕文化の生成』日本考古学協会 1961
- 5) 七田忠昭他『吉野ヶ里』佐賀県文化財調査報告書第113集 佐賀県教育委員会 1992
- 6) 原田大介『八藤遺跡Ⅲ』上峰町文化財調査報告書第16集 上峰町教育委員会 1999
- 7) 七田忠志『原始』『上峰村史』上峰村 1979
- 8) 下山正一・西田民雄『II. 佐賀県上峰町周辺の地形と地質』『佐賀平野の阿蘇4大砂流と埋没林』上峰町文化財調査報告書第11集 上峰町教育委員会 1994
- 9) 高瀬哲郎・堤安信・久保伸洋『香田遺跡』『香田遺跡』九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書2 佐賀県文化

- 財調査報告書第57集 佐賀県教育委員会 1981
- 10) 七田忠志 「佐賀県牧場ヶ谷遺跡」『史前学雑誌』 6-2・4 1934
- 11) 原田大介 『船石遺跡V』 上峰町文化財調査報告書第12集 上峰町教育委員会 1995
- 12) 原田大介 『八幡遺跡II・堤土塁跡II』 上峰町文化財調査報告書第14集 上峰町教育委員会 1998
前出 (6)
- 13) 金間丈夫・金間惣・原口正三 「佐賀県切通遺跡」『日本農耕文化の生成』 日本考古学協会 1961
- 14) 高島忠平・七田忠昭他 「二塚山遺跡」「二塚山」 佐賀県文化財調査報告書第46集 佐賀県教育委員会 1979
- 15) 七田忠昭 『一本谷遺跡』 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1983
- 16) 七田忠昭 『船石遺跡』 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1983
- 17) 鶴田浩二・原田大介 『船石遺跡II 図録編』 上峰村文化財調査報告書第6集 上峰村教育委員会 1988
鶴田浩二・原田大介 『船石遺跡II 本文編』 上峰村文化財調査報告書第7集 上峰村教育委員会 1989
- 原田大介 『船石遺跡III』 上峰町文化財調査報告書第8集 上峰町教育委員会 1990
- 原田大介 『船石遺跡IV』 上峰町文化財調査報告書第9集 上峰町教育委員会 1991
- 18) 原田大介 『船石南遺跡I』 上峰町文化財調査報告書第21集 上峰町教育委員会 2002
- 原田大介 『船石南遺跡II』 上峰町文化財調査報告書第22集 上峰町教育委員会 2002
- 19) 原田大介 『八幡遺跡I』 上峰町文化財調査報告書第13集 上峰町教育委員会 1987
- 20) 木下巧他 『船方原遺跡』 佐賀県文化財調査報告書第33集 佐賀県教育委員会 1976
- 21) 木下巧・七田忠昭 「五本谷遺跡」「二塚山」 佐賀県文化財調査報告書第46集 佐賀県教育委員会 1979
- 22) 石橋新次 『劍塚前方後円墳』 烏柄市文化財調査報告書第22集 烏柄市教育委員会 1984
- 23) 前出 (2)
- 24) 松尾楨作 「日遠原古墳群調査報告」「佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告」 第9輯 佐賀県教育委員会 1960
- 25) 木下之治 『古代国家の形成』『佐賀県史』 佐賀県 1968
- 26) 木下之治編 『銚子塚』 佐賀市教育委員会 1976
- 27) 松尾楨作 『佐賀県考古大観』 祐徳博物館 1959
- 28) 前出 (24)
- 29) 前出 (16)
- 30) 七田忠昭・高山久美子・西田和己 『下中秋遺跡』 佐賀県文化財調査報告書第54集 佐賀県教育委員会 1980
- 31) 高瀬哲郎他 「下石動遺跡」「下石動遺跡」 九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書 (6) 佐賀県文化財調査
報告書第86集 佐賀県教育委員会 1987
- 32) 松尾楨作 「東脊振村幸上廬寺跡の調査」 『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』第5輯 佐賀県 1936
- 33) 田平徳常他 『雲仙寺跡』 東脊振村文化財調査報告書第4集 東脊振村教育委員会 1980
- 34) 高島忠平・梶一義 『堤土塁跡』 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1978
- 35) 松尾楨作 「塔の坂廈寺址」 『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』 第7輯 佐賀県 1940
- 36) 前出 (12)
原田大介 『八幡遺跡III』 上峰町文化財調査報告書第16集 上峰町教育委員会 1999
- 37) 平成5、6年度、上峰町教育委員会調査、整理中
- 38) 米倉二郎 『中世』『上峰村史』 上峰村 1979
- 39) 原田大介 『坊所城跡』 上峰町文化財調査報告書第10集 上峰町教育委員会 1992

II. 調査の概要

1. 調査に至る経緯

上峰町教育委員会では、平成元年度より、国庫補助事業の適用を受け、埋蔵文化財保護と開発との調整を図るために開発行為に伴い町内遺跡について事前の確認調査を実施してきた。民間あるいは公共機関等が主体となって実施される町内における各種開発行為について事前に協議を行い、周知の埋蔵文化財包蔵地の内外にかかわらず、これまでに埋蔵文化財発掘調査歴がない土地については、開発面積や工法等の制約がない限り、開発主体者等に事前の確認調査の実施にむけた協力を要請している。

2. 調査の方法

確認調査の方法は、開発予定地に面積的、地形的な制約がない場合、原則として10m×3mの試掘溝により地下の遺構・遺物の有無を確認することとしている。図上で開発予定範囲全体に10mのメッシュを組み、このメッシュに10m×3mの試掘溝を一マスおきに市松模様状に設定し、試掘溝の配置計画を作成している。この試掘溝配置計画をもとに現地で試掘溝を設定し、確認調査を実施している。

また、開発面積に対する試掘面積の割合は、事前に図上で試掘溝を設定する時点ではおむね開発面積の10%を目途としているものの、実際の調査では現地の種々の制約により、試掘溝の規模、配置等は臨機応変な対応を探ることも多く、試掘面積を縮小せざるを得ない場合も少なくはない。

各試掘溝の掘削については、遺構検出面までの掘削には可能な限り重機を使用しているが、重機が使用できない場合、包含層や遺構の掘り下げなどそれ以上の精査が必要な場合は作業員の人力により掘削を行っている。

試掘の結果、遺構などが検出された試掘溝については、適宜、遺構配置等の略測を行い、縮尺1/100程度の平面図、縮尺1/20程度の土層断面図を作成し、フィルムカメラ・デジタルカメラによる写真撮影を行い記録としている。作業終了後は、原則として試掘溝は埋め戻しを行い原状への復旧を図っている。

また、確認調査の結果、開発予定地内から遺構や遺物が検出された場合で、かつ、調査原因が個人専用住宅の建設、個人による自己所有農地の改良など、遺跡の記録保存等に係る経費について、これを開発主体者に求めることが困難であると認められる場合は、本補助事業の予算の範囲内において、検出された地下の埋蔵文化財に工事の影響が及ぶ範囲について記録保存を目的とした必要最小限の本調査を実施することとしている。

上峰町全図

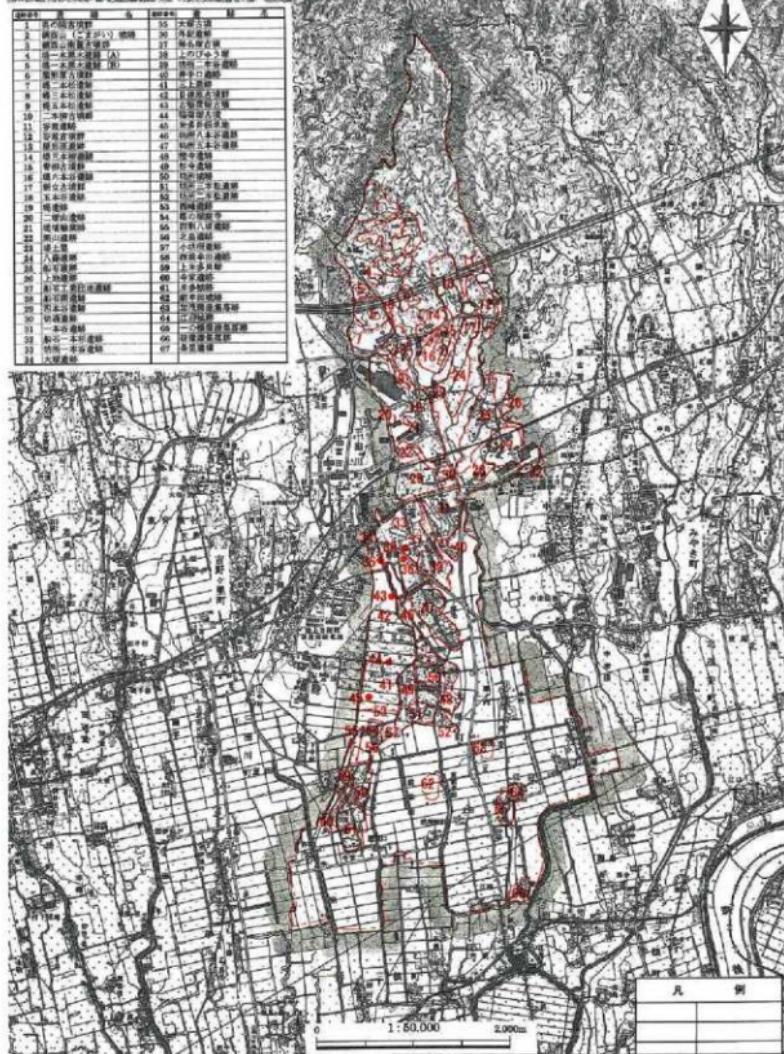


Fig. 2 上峰町遺跡地図 (1/50,000)

III. 平成27年度の調査

Tab.1 平成27年度 町内遺跡確認調査一覧表

No.	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(m ²)	調査面積(m ²)	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
1	西峰遺跡	上峰町大字坊所字西峰 2885番地	個人	共同住宅建設工事	973	84	平成27年4月21日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済	
2	周知外下津毛地区	上峰町大字坊所字二本谷 2501番地7	個人	埋蔵文化財の有無確認	1,168	38	平成27年5月14日	遺構・遺物は検出されなかった。		
3	坊所五本谷遺跡(1)	上峰町大字坊所字五本谷 2090番地6	個人	個人専用住宅建設工事	246	16	平成27年5月27日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済	
4	周知外下坊所地区(1)	上峰町大字坊所字下坊所 1750番地1の一部 1750番地2の一部	個人	共同住宅建設工事	1,445	50	平成27年5月26日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済	
5	周知外下坊所地区(2)	1750番地1の一部 1750番地2の一部	個人	共同住宅建設工事	762	20	平成27年5月26日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済	
6	米多城跡	上峰町大字廣平田 429番地の一部 703番地16	上峰町	消防格納庫建設工事	560	20	平成27年7月15日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済	
7	三上遺跡(1)	上峰町大字坊所字三上 3165番地15	一建設株式会社	建売住宅建設工事	135	12	平成27年6月15日	奈良時代以前の土器・ビート等を検出した。須恵器の杯盤が出土した。	工事実施予定	
8	坊所五本谷遺跡(2)	上峰町大字坊所字五本谷 1825番地2	個人	共同住宅建設工事	662	20	平成27年6月15日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施予定	
9	坊所五本谷遺跡(3)	上峰町大字坊所字五本谷 1828番地1	個人	個人専用住宅建設工事	329	13	平成27年7月15日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施予定	工事面積662m ² のうち未調査部分342m ² を対象に調査
10	五本谷遺跡	上峰町大字堤字五本谷 2043番地2	個人	個人専用住宅建設工事	499	15	平成27年7月28日	弥生時代の漢跡、江戸時代の漢跡を検出した。弥生土器、近世の陶磁器片を検出した。	工事実施済	
11	周知外下坊所地区(3)	上峰町大字坊所字一本松 239番地3	個人	個人専用住宅建設工事	420	20	平成27年9月2日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施予定	
12	周知外江迎地区	上峰町大字江迎字江迎 1520番地8 1820番地9	個人	資材置場及び駐車場用地造成工事	533	20	平成27年9月28日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施予定	
13	一本谷遺跡(1)	上峰町大字坊所一本谷 2552番地117	個人	共同住宅建設工事	845	90	平成27年10月13日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施中	
14	一本谷遺跡(2)	上峰町大字坊所一本谷 2552番地116	個人	共同住宅建設工事	830	28	平成28年2月29日	遺構・遺物は検出されなかった。		
15	船石工業団地遺跡	上峰町大字堤字二本杉 180番地10	日本農業株式会社	太陽光発電施設敷設工事	3,984	150	平成27年12月17日 平成27年12月22日 平成27年12月24日 平成27年12月25日	弥生土器片1点を検出した。遺構は検出されなかった。	工事実施予定	
16	一本谷遺跡(3)	上峰町大字坊所一本谷 2553番地2	医療法人社団 うえきクリニック	サービス付き高齢者向け住宅 ・デイサービスセンター建設工事	2,435	88	平成28年1月7日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施予定	

No.	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(m ²)	調査面積(r ²)	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
17	三上遺跡(2)	上峰町大字坊所字西峰 2928番地1	有限会社シティ開発	分譲宅地造成工事	947	30	平成28年1月8日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施予定	
18	外記遺跡	上峰町大字坊所字七本谷 1570番地13 1570番地14	株式会社 雄徳物流	物流倉庫建設工事及び駐車場用地造成	5,310	169	平成28年2月3日 平成28年2月4日 平成28年2月5日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施予定	
19	谷渡古墳群	上峰町大字堤字谷渡 1549番地1	個人	個人専用住宅建設工事	781	46	平成28年3月3日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施予定	
20	三上遺跡(3)	上峰町大字坊所字西峰 2961番地1 2951番地2 2961番地5 2961番地6 2951番地7	個人	共同住宅建設工事	932	30	平成28年3月2日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施予定	
21	坊所城跡	上峰町大字坊所字裡寺 709番地1 710番地 709番地3 709番地4 711番地	学校法人みどり学園	幼稚園建設工事	4,392	210	平成28年3月18日 平成28年3月22日 平成28年3月23日	中世の溝跡、柱穴、土壤等が検出された。 遺物は中世の土師器片が多数出土した。	平成28年度に本調査を実施。	
22	切通遺跡	上峰町大字堤字四本谷 1903番地269	個人	個人専用住宅建設工事	318	18	平成28年3月15日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施予定	
23	周知外下米多地区	上峰町大字前半田字二本桜 788番地1	個人	個人専用住宅建設工事	25	6	平成28年3月23日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施予定	
24	周知外東前半田地区	上峰町大字前半田東前半田 75番地2 69番地1 69番地2	有限会社東山ターフメントナン	分譲宅地造成工事	1,975	30	平成28年3月24日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施予定	
合 計					30,506	1,223				

上峰町全図



Fig. 3 平成27年度 確認調査地位図 (1/50,000)

H 27-1

遺跡名：西峰遺跡

調査地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：973m²

調査面積：84m²

調査時期：平成27年4月21日

立地と環境： 西峰遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近か

ら本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵

の南部、標高約8~9m付近に広がる弥生時代から古墳時代に及ぶ集落・墳墓遺跡である。

本町と西方の吉野ヶ里町にまたがる目達原丘陵は、戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと改変されているが、それ以前はいくつかの丘陵と谷があり組んだ複雑な地形を呈しており、一帯の丘陵部には大塚、小塚荷塚、篠塚などの前方後円墳が点在し目達原古墳群を形成していた。また本遺跡周辺には塔の魔羅寺、米多の井伝承など古代の遺構も知られ、北側の目達原丘陵中央部には三上遺跡が所在している。

調査対象区域は目達原丘陵の南部標高8m付近に位置しており、これまで更地となっていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 4 西峰遺跡 (1/5,000)



PL. 1 No. 1試掘溝断面

H 27-2

遺跡名：周知外下津毛地区

調査地：上峰町大字坊所字二本谷

工事内容：埋蔵文化財の有無確認

工事面積：1,168m²

調査面積：38m²

調査時期：平成27年5月14日

立地と環境：調査対象区域は下津毛地区の標高16m付

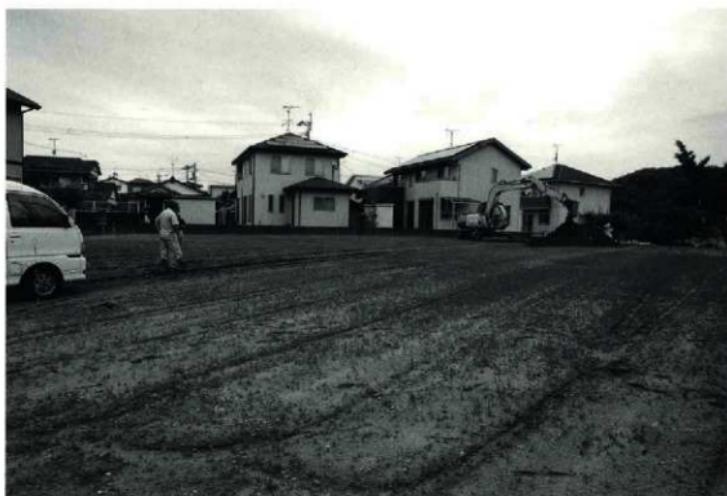
近に位置し、これまで空き地となっていた。
た。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：埋蔵文化財なし



Fig. 5 周知外下津毛地区 (1/5,000)



PL. 2 調査地全景

H 27-3

遺跡名：坊所五本谷遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字五本谷

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：246m²

調査面積：16m²

調査時期：平成27年5月27日

立地と環境： 坊所五本谷遺跡は、本町郡境集落付近から下津毛集落付近へ延びる下津毛丘陵

の南部、標高約 7~16m 付近に広がる弥生、古墳時代の集落および墳墓遺跡である。

現下津毛集落が立地する下津毛丘陵は丘陵の東西を谷水田が走り南北に細長い舌状の丘陵で、丘陵北部には坊所一本谷遺跡、外記遺跡、上のびゆう塚（都紀女加王墓）などが所在し、南部には本遺跡が立地している。

調査対象区域はこの下津毛丘陵の中南部西辺部、標高 14m 付近に位置しており、これまで宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 6 坊所五本谷遺跡(1) (1/5,000)



PL. 3 No.1試掘溝

H 27-4

遺跡名：周知外下坊所地区(1)

調査地：上峰町大字坊所字下坊所

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：1,445m²

調査面積：50m²

調査時期：平成27年5月26日

立地と環境： 調査対象区域は下坊所地区の標高6m付近
に位置し、これまで空き地となっていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 7 周知外下坊所地区(1) (1/5,000)



PL.4 作業状況

H 27-5

遺跡名：周知外下坊所地区(2)

調査地：上峰町大字坊所字下坊所

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：762m²

調査面積：20m²

調査時期：平成27年5月26日

立地と環境： 調査対象区域は下坊所地区の標高6m付近に位置し、これまで空き地となっていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 8 周知外下坊所地区(2) (1/5,000)



PL. 5 №1試掘溝

H 27-6

遺跡名：米多城跡

調査地：上峰町大字前半田

工事内容：消防格納庫建設工事

工事面積：560m²

調査面積：20m²

調査時期：平成27年7月15日

立地と環境： 米多城跡は、吉野ヶ里町目達原付近か

ら木町米多集落付近へ延びる目達原丘陵

南端が沖積地に没する下米多・寺家一・寺家二集落一帯の標高約4m付近に所在する中世の城館跡である。

本遺跡北側の目達原丘陵南端部の微高地上には西前半田遺跡、上米多貝塚、寺家遺跡など、弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡が所在している。

調査対象区域は現寺家一集落内の沖積地標高3.5m付近に位置しており、これまでゲートボール施設として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 9 米多城跡 (1/5,000)



PL. 6 調査地全景

H 27-7

遺跡名：三上遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字三上

工事內容：建築住宅建設工事

工事面積：135m²

調查面積：12 m²

調査時期：平成27年6月15日

立地と環境： 三上遺跡は、吉野ヶ里町目連原付近か

白木町米多集落付近へ砾びる目達原丘陵

の中央部、標高約8~16m付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

本町と西方の吉野ヶ里町にまたがる日連原丘陵は、戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと改変されているが、それ以前はいくつかの丘陵と谷が入り組んだ複雑な地形を呈しており、一帯の丘陵部には大塚、古稱荷塚、備荷塚などの前方後円墳が点在し日連原古墳群を形成していた。

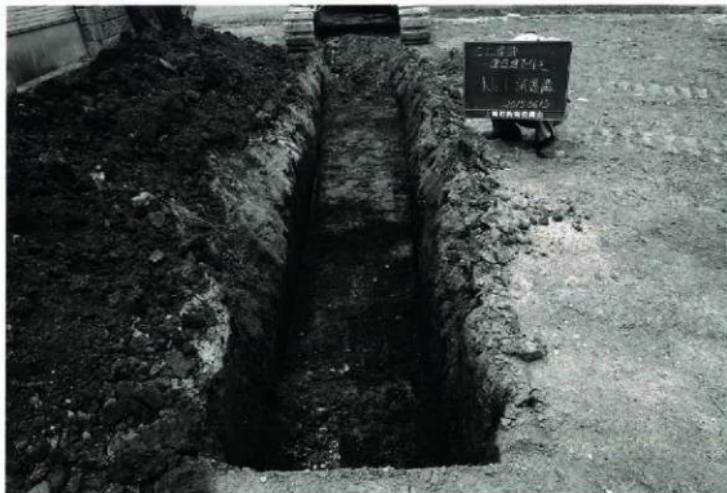
調査対象区域は日連原丘陵の中央部。標高15m付近に位置しており、これまで宅地として利用されていた。

遺構と遺物：奈良時代以前のものと考えられる、ピット等の遺構を検出しカキなどの貝殻が出土した。

調查後措置：工事実施



Fig.10 三上遺跡(1) (1/5,000)



PL. 7 No. 1 試掘溝

H 27-8

遺跡名：坊所五本谷遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字五本谷

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：662m²

調査面積：20m²

調査時期：平成27年6月15日

立地と環境：坊所五本谷遺跡は、本町郡境集落付近か

ら下津毛集落付近へ延びる下津毛丘陵の南

部、標高約7~16m付近に広がる弥生、古墳時代の集落および墳墓遺跡である。

現下津毛集落が立地する下津毛丘陵は丘陵の東西を谷水田が走り南北に細長い舌状の丘陵で、丘陵北部には坊所一本谷遺跡、外記遺跡、上のびゅう塚（都紀女加王墓）などが所在し、南部には本遺跡が立地している。

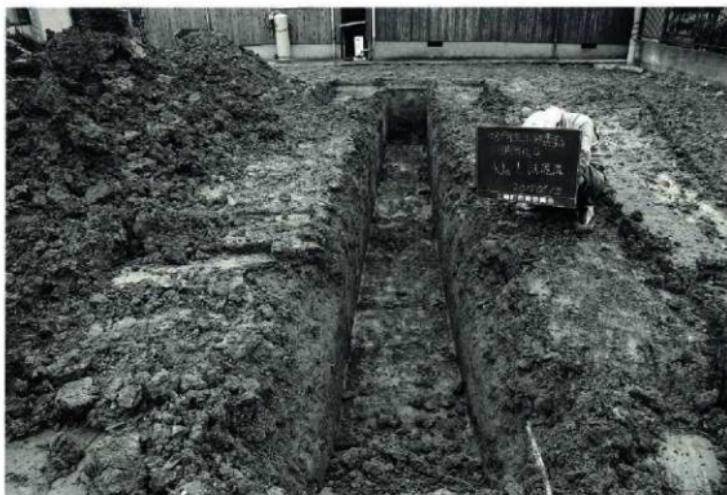
調査対象区域はこの下津毛丘陵の中南部西辺部、標高14m付近に位置しており、これまで宅地内の空き地であった。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 11 坊所五本谷遺跡(2) (1/5,000)



PL. 8 No.1試掘溝

H 27-9

遺跡名：坊所五本谷遺跡(3)

調査地：上峰町大字坊所字五本谷

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：329m²

調査面積：13m²

調査時期：平成27年7月15日

立地と環境： 坊所五本谷遺跡は、本町郡境集落付近か

ら下津毛集落付近へ延びる下津毛丘陵の南

部、標高約7～16m付近に広がる弥生、古墳時代の集落および墳墓遺跡である。

現下津毛集落が立地する下津毛丘陵は丘陵の東西を谷水田が走り南北に細長い舌状の丘陵で、丘陵北部には坊所一本谷遺跡、外記遺跡、上のびゅう塚（都紀女加王墓）などが所在し、南部には本遺跡が立地している。

調査対象区域はこの下津毛丘陵の中南部西辺部、標高14m付近に位置しており、これまで宅地内の空き地であった。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 12 坊所五本谷遺跡(3) (1/5,000)



PL. 9 調査地近景

H 27-10

遺跡名：五本谷遺跡

調査地：上峰町大字堤字五本谷

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：499m²

調査面積：15m²

調査時期：平成26年7月28日

立地と環境： 五本谷遺跡は町北部の上峰町大字堤字

五本谷に所在し、二塚山丘陵上に位置す

る弥生時代から古墳時代にかけての墳墓遺跡である。町北部の山麓部から本町堤地区に派生する二塚山丘陵は先年の工業団地造成に伴い弥生時代から古墳時代にかけての墳墓が多数検出されており、一部が工業団地内の綠地として保存されている。

調査対象地区は二塚山丘陵の東部標高20m付近に位置しており、これまで空き地となっていた。

遺構と遺物：弥生時代の溝跡、江戸時代の溝跡を検出した。弥生土器、近世の陶磁器片を検出した。

調査後措置：工事実施



PL.10 遺構出土状況

H 27-11

遺跡名：周知外下坊所地区(3)

調査地：上峰町大字坊所字一本松

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：420m²

調査面積：20m²

調査時期：平成27年9月2日

立地と環境： 調査対象区域は下坊所地区の標高 5m

付近に位置し、これまで宅地であった。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig.14 周知外下坊所地区(3) (1/5,000)



PL.11 №1試掘溝

H 27-12

遺跡名：周知外江迎地区

調査地：上峰町大字江迎字江迎

工事内容：資材置場及び駐車場用地造成工事

工事面積：533m²

調査面積：20m²

調査時期：平成27年9月28日

立地と環境： 調査対象区域は江迎地区の標高6m付近に

位置し、これまで水田として利用されてい

た。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig.15 周知外江迎地区 (1/5,000)



PL.12 調査地全景

H 27-13

遺跡名：一本谷遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字一本谷

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：845m²

調査面積：90m²

調査時期：平成27年10月13日

立地と環境： 一本谷遺跡は、本町北部の大字堤地区

の二塚山丘陵から国道34号線以南の本

町中部の大字坊所字一本谷付近へ延びる井手口丘陵上に広がる縄文時代から古墳時代に及ぶ集落および墳墓遺跡である。

本遺跡周辺には北方国道34号線北側に切通遺跡、四本谷遺跡などの二塚山遺跡群が、また西方の丘陵上には坊所一本谷遺跡、坊所二本谷遺跡などが所在している。

今回の調査対象区域は、この井手口丘陵の中央部、標高24m付近に位置しており、空き地となっていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施

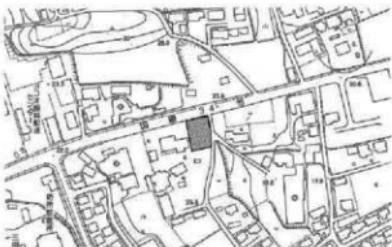


Fig.16 一本谷遺跡(1) (1/5,000)



PL.13 №1試掘溝

H 27-14

遺跡名：一本谷遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字一本谷

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：830m²

調査面積：28m²

調査時期：平成28年2月29日

立地と環境：一本谷遺跡は、本町北部の大字堤地区

の二塚山丘陵から国道34号線以南の本

町中部の大字坊所字一本谷付近へ延びる井手口丘陵上に広がる縄文時代から古墳時代に及ぶ集落および墳墓遺跡である。

本遺跡周辺には北方国道34号線北側に切通遺跡、四本谷遺跡などの二塚山遺跡群が、また西方の丘陵上には坊所一本谷遺跡、坊所二本谷遺跡などが所在している。

今回の調査対象区域は、この井手口丘陵の中央部、標高24m付近に位置しており、空き地となっていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施

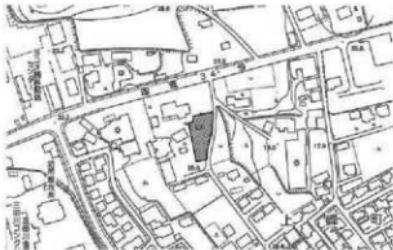


Fig.17 一本谷遺跡(2) (1/5,000)



PL.14 調査地全景

H 27-15

遺跡名：船石工業団地遺跡

調査地：上峰町大字堤字二本杉

工事内容：太陽光発電施設敷設工事

工事面積：3,984m²

調査面積：150m²

調査時期：平成27年12月17日・22日・24日・25日

立地と環境： 船石工業団地遺跡は、みやき町（旧中

原町）高柳集落付近から本町切通集落付

近へ派生する船石丘陵の西側に所在する弥生時代の墳墓遺跡である。

本町北部の堤地区には、地区を南流する切通川東岸に船石丘陵、八藤丘陵、同川西岸には二塚山丘陵が発達し、それぞれの丘陵上には船石遺跡はじめ八藤遺跡、二塚山五本谷遺跡、切通遺跡など町を代表する弥生時代の集落・墳墓遺跡が高い密度で分布している。

今回の調査対象区域は、標高27m付近に位置しており、これまで日本農業株式会社敷地内のグラウンドとして利用されていた。

遺構と遺物：弥生土器片1点を検出した。遺構は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 18 船石工業団地遺跡 (1/5,000)



PL.15 調査地全景

H 27-16

遺跡名：一本谷遺跡(3)

調査地：上峰町大字坊所字七本谷

工事内容：サービス付き高齢者向け住宅・

デイサービスセンター建設工事

工事面積：2,435m²

調査面積：88m²

調査時期：平成28年1月7日

立地と環境：一本谷遺跡は、本町北部の大字堤地区

の二塚山丘陵から国道34号線以南の本

町中部の大字坊所字一本谷付近へ延びる井手口丘陵上に広がる縄文時代から古墳時代に及ぶ集落および墳墓遺跡である。

本遺跡周辺には北方国道34号線北側に切通遺跡、四本谷遺跡などの二塚山遺跡群が、また西方の丘陵上には坊所一本谷遺跡、坊所二本谷遺跡などが所在している。

今回の調査対象区域は、この井手口丘陵の中央部、標高24m付近に位置しており、空き地となっていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig.19 一本谷遺跡(3) (1/5,000)



PL.16 作業状況

H 27-17

遺跡名：三上遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：947m²

調査面積：30m²

調査時期：平成28年1月8日

立地と環境： 三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原村近か

ら本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵

の中央部、標高約8～16m付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

本町と西方の吉野ヶ里町にまたがる目達原丘陵は、戦時の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと変改されているが、それ以前はいくつかの丘陵と谷があり組んだ複雑な地形を呈しており、一帯の丘陵部には大塚、古墳荷塚、荷塚などの前方後円墳が点在し目達原古墳群を形成していた。

今回の調査対象区域は目達原丘陵の中央部、標高9m付近に位置しており、これまで畠地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig.20 三上遺跡(2) (1/5,000)



PL.17 No.3試掘溝

H 27-18

遺跡名：外記遺跡

調査地：上峰町大字坊所字七本谷

工事内容：物流倉庫建設工事及び駐車場造成

工事面積：5,310m²

調査面積：169m²

調査時期：平成28年2月3日・4日・5日

立地と環境： 外記遺跡は本町群境地区付近から下津毛地区へ延びる下津毛丘陵北部、標高15

~21m付近に所在する弥生時代から中世にかけての集落・墳墓遺跡で、これまでの大型商業施設の建設等に伴う発掘調査の結果、古墳時代から奈良・平安時代の集落が調査されている。

この下津毛丘陵上には本遺跡の東に隣接して上のびゅう塚古墳が所在し、都紀女加王墓として陵墓参考地に指定されている。また西方には外記溜池付近を谷頭とする谷水田部を挟んで目連原丘陵が広がっている。

今回の調査対象区域は、遺跡の北部、下津毛丘陵の基部、標高20m付近に位置しており外記溜池東側の土地で、これまで西側の一部は駐車場として利用され、東側は藪となっていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig.21 外記遺跡 (1/5,000)



PL.18 No.4試掘溝

H 27-19

遺跡名：谷渡古墳群

調査地：上峰町大字堤字谷渡

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：781m²

調査面積：46m²

調査時期：平成28年3月3日

立地と環境： 谷渡古墳群は、本町北部の大字堤地区

の八幡丘陵北部から国道31号線以南の

大字堤字谷渡に広がる古墳群である。本遺跡周辺には北東部国道31号線北側に二本柳古墳群、南側に新立古墳群、青柳古墳群などが所在している。

今回の調査対象区域は、この八幡丘陵の北部、標高40m付近に位置しており、これまで宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig.22 谷渡古墳群 (1/5,000)



PL.19 No.3試掘溝

H 27-20

遺跡名：三上遺跡(3)

調査地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：932m²

調査面積：30m²

調査時期：平成28年3月2日

立地と環境： 三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から

ら本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵

の中央部、標高約8～16m付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

本町と西方の吉野ヶ里町にまたがる目達原丘陵は、戦時の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと変改されているが、それ以前はいくつかの丘陵と谷が入り組んだ複雑な地形を呈しており、一帯の丘陵部には大塚、古墳荷塚、福荷塚などの前方後円墳が点在し目達原古墳群を形成していた。

今回の調査対象区域は目達原丘陵の中央部、標高9m付近に位置しており、これまで畠地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig.23 三上遺跡(3) (1/5,000)



PL.20 調査地全景

H 27-21

遺跡名：坊所城跡

調査地：上峰町大字坊所字櫻寺

工事内容：幼稚園建設工事

工事面積：4,392m²

調査面積：210m²

調査時期：平成28年3月18日・22日・23日

立地と環境： 坊所城跡は、上峰町大字坊所字櫻寺一

帯に城域をもつ中世の城館跡で、吉野ヶ

里町日連原付近から本町坊所地区へ延びる坊所丘陵の中央部、標高約9m～11m付近に位置している。平成3年に実施した分譲宅地造成工事に伴う城域の南西部分の調査では土塁、掘立柱建物、溝跡、井戸などが検出され、16世紀後半の舶載染付磁器片などが出土している。周辺には櫻寺遺跡・杉寺遺跡など中世の集落遺跡が分布している。

今回の調査対象区域は、坊所丘陵の中央部、坊所城跡の城域の東部、標高9m付近に位置しており、畑として利用されていた。

遺構と遺物：中世の溝跡、柱穴、土壙等が検出された。遺物は中世の土師器片が多数出土した。

調査後措置：建物部分1,600m²について記録保存を目的として本調査を実施。本調査後、工事実施。



Fig.24 坊所城跡 (1/5,000)



PL.21 No.4試掘溝

H 27-22

遺跡名：切通遺跡

調査地：上峰町大字堤字四本谷

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：318m²

調査面積：18m²

調査時期：平成28年3月15日

立地と環境： 切通遺跡は町中北部の上峰町大字堤字

四本谷に所在し、二塚山丘陵状に位置す

る弥生時代の燒棺墓群を主体とする墳墓遺跡である。町北部の山麓部から本町堤地区に派生する二塚山丘陵は先年の工業団地造成に伴い弥生時代から古墳時代にかけての墳墓が多数検出されている。

今回の調査対象区域は二塚山丘陵の北部、標高22m付近に位置しており、これまで空き地となっていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig.25 切通遺跡 (1/5,000)



PL.22 No.1試掘溝

H 27-23

遺跡名：周知外下米多地区

調査地：上峰町大字前半田字二木桜

工事内容：個人専用住宅増設工事

工事面積：25m²

調査面積：6m²

調査時期：平成28年3月23日

立地と環境：調査対象区域は下米多地区の標高4m付

近に位置し、これまで宅地となっていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



PL.23 作業状況

H 27-24

遺跡名：周知外東前牟田地区

調査地：上峰町大字前牟田字東前牟田

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：1,975m²

調査面積：30m²

調査時期：平成28年3月24日

立地と環境：調査対象区域は東前牟田の標高4m付近

に位置し、これまで資材置き場として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig.27 周知外東前牟田地区 (1/5,000)



PL.24 調査地全景

報告書抄録

ふりがな	かみみねちょうないいせきかくにんちょうさⅧ						
書名	上峰町内遺跡確認調査Ⅷ						
副書名	上峰町内における開発行為に伴う埋蔵文化財確認調査報告書 ——平成27年度——						
卷次							
シリーズ名	上峰町文化財調査報告書						
シリーズ番号	第43集						
編著者名	伊達 有彩						
編集機関	上峰町教育委員会						
所在地	佐賀県三養基郡上峰町坊所319-4 上峰町民センター内 Tel 0952-52-3833/Fax 0952-52-3888						
発行年月日	2017年3月31日						
所収遺跡名	所 在 地	コード 市町村	北緯 ○' ′ ″	東經 ○' ′ ″	調査期間	調査面積ha	調査原因
町内遺跡	佐賀県三養基郡 上峰町一円	41345			2015.4. ～ 2016.3		町内における各種開発行為
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
町内遺跡	古墳 集落跡 城館跡	弥生 古墳 奈良・平安 中世 近世 近代	ピット・溝跡・土壙等	弥生土器・須恵器・土師器・ 中世陶磁器・中世土器・近世 陶磁器・近代陶磁器			

上峰町文化財調査報告書第43集

上峰町内遺跡確認調査Ⅷ

平成29年 3月10日 印刷

平成29年 3月31日 発行



編集発行 上峰町教育委員会

佐賀県三養基郡上峰町坊所319-4

印刷 大同印刷株式会社

佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20

